

福島イノベーション・コースト構想への対応

Contribution to the Fukushima Innovation Coast Framework

The Fukushima Innovation Coast Framework is a national project designed to build a new industrial infrastructure in the coastal region of Fukushima Prefecture in order to recover the industries that were lost due to the earthquake and tsunami on March 11, 2011 and the nuclear disaster.

Within the Framework, projects will be realized in the fields of robotics, energy, decommissioning, agroforestry and fisheries, and efforts are made to form industrial clusters, foster human resources, and to increase the number of visitors.

福島イノベーション・コースト構想は、浜通り地域等における産業の復興のため、この地域での新たな産業の創出を目指す構想です。廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー、農林水産等の分野における産業集積、教育・人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでいます。

県内外の大学等が有する本県復興に資する知を集積・活用し、この構想の実現に向けてイノベーションを生み出す高度な人材の長期的な教育・育成の基盤を構築することを目的に、「大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業」が行われています。本校でもさまざまな機関と協力しながら次の事業に取り組んでいます。

大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業

事業名：広野町における未利用資源の探索と資源化みかんプロジェクト

1. 事業のポイント

本事業では、イノベーション人材として、地域の活性化提案をする人、そのような取り組みを理解したり支援する人と定義し、さまざまな取り組みに参加しやすい環境や意識を醸成して行く取り組みであること。

目的の達成のために、教育、農業、環境の3分野で活動を展開し、小学生から高校生、その保護者、農業関係者、町内の方々へ向けて、微生物の探索、農産廃棄物などの資源化検討、農業分野での省エネルギーなど提案し、二ツ沼総合公園や学校など広野町内で活動を展開する事業である。

2. 人材育成目標

地域の活性化や取り組みを提案できる人、その活動を理解できる人、支援できる人をイノベーション人材と定義し、さまざまな取り組みに参加しやすい環境作り、科学や技術への興味、関心を持つてる雰囲気や意識の醸成に取り組む。

3. 2023年度の活動内容

・有用微生物の探索 ひろの花マップの作成 季節を彩る花に注

目して、微生物のサンプリングを行って、微生物と花の情報を地図上に記録する。

- ・放課後理科教室 広野小学校などで微生物の特別講義と実習を行い、身近な微生物の存在の確認と微生物の採取をみかんの丘で実施する。培養、単離、遺伝子解析は福島高专で行う。
- ・施設園芸農業支援 パナナ栽培における省エネルギー（地中熱の利用、温室の特性改善）、廃棄物の資源化と循環利用、パナナ苗生産に取り組む。

4. 取り組みによって得られる成果

- ・町民参加型の有用微生物探索活動による町由来微生物の産業利用、特産品の開発、雇用、施設園芸農業の効率化、パナナ栽培の持続性向上、二ツ沼総合公園での学習
- ・科学と技術による「広野町の再発見と新しい評価」の提案



放課後理科教室



施設園芸農業支援

事業名：福島復興知学の深化と展開：ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

1. 事業のポイント

復興知とイノベーション・コースト構想の推進に必要な多層的な知識・技能を身につけた人材を「ミルフィーユ型人材」とし、自治体・大学等・企業等と連携してミルフィーユ型人材を育成する。さらに、ミルフィーユ型人材育成を通じて、産業創出や国際的情報発信も行う。

2. 人材育成目標

【地域を担う未来人材の育成基盤構築】

各ライフステージに応じた多層的教育を経て真の復興を担える多様な人材を育成する。

【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を支える人材の育成基盤構築】

浜通りでの「まなび」をもとに学術文化を推進し、世界に情報発信できる人材を育成する。

3. 2023年度の活動内容

【地域の創造的復興を担う人材の育成基盤構築】

- ・科学教室、市民講演会、企業向けセミナー、自治体向けに各種セミナー等を実施。
- ・連携する自治体・施設・企業等と協力して、ミュージアム事業

と国際会議等を実施。

【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を担える人材の育成基盤構築】

- ・東京大学、福島高专で復興知教育プログラムを実施。自治体・企業へ放射線教育の提供。
- ・連携する自治体・施設等に大学生等を100名程度引率し、フィールド学習と地域交流を実施。
- ・放射線に関する卓越した教育研究を実施して国際的に情報発信。製品化研究も実施して産業育成。

4. 取り組みによって得られる成果

- ・多層的な知識と技能を身につけて地域の発展に貢献できるミルフィーユ型人材が育成される。
- ・「福島らしい」新しい学術文化を創造し、面的な地域活性化・魅力と価値創造に貢献する。
- ・「福島ならではの」の卓越した教育・先端研究を実施し、復興知事業を国際的に情報発信できる。



フィールドワーク



東日本大震災・原子力災害伝承館見学